

平成 27 年 5 月 13 日

各 位

東京都港区虎ノ門四丁目 1 番 28 号
虎ノ門タワーズオフィス
フィンテック グローバル株式会社
代表取締役社長 玉井 信光
(コード番号：8789 東証マザーズ)
問合せ先：取締役 経営管理部/事業統括部管掌
上席執行役員 鷺本 晴吾
電話番号：(03) 5733-2121

第 2 四半期連結累計期間業績と前年同期実績との差異 及び通期連結業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、平成 27 年 9 月期第 2 四半期連結累計期間(平成 26 年 10 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日)における業績につき、業績予想をしておりませんので、前年同期との対比について下記のとおりお知らせいたします。また、平成 27 年 4 月 28 日に公表しました連結子会社の岡山建設株式会社の株式譲渡及び最近の業績動向を踏まえ、通期連結業績予想を下記のとおり修正いたしましたので、あわせてお知らせいたします。

記

1. 平成27年9月期第2四半期連結累計期間(平成26年10月1日～平成27年3月31日)業績と前年同期実績との差異

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前年同期実績 (A)	1,670	841	913	1,029	8.45
今回発表業績 (B)	2,400	△61	60	71	0.49
増減額 (B-A)	730	△902	△852	△958	—
増減率 (%)	43.8	—	△93.3	△93.0	—

(注) 当社は、平成26年4月1日を効力発生日として、普通株式1株につき100株の割合をもって株式分割を行っております。これに伴い、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して1株当たり四半期純利益を算定しております。

2. 差異の理由

【投資銀行事業の売上高】

再生可能エネルギー関連のアレンジメントが太陽光発電事業のアレンジメント業務だけでなく、中小水力発電事業に対し投資ニーズがある投資家の招聘に係るアレンジメント業務を受託するなど順調に推移しました。一方、投資回収においては一部の組合収益の取込みのみで成果を上げるにいたらず、投資銀行事業の売上高は671百万円となりました。投資事業組合からの大型投資回収(売上高及び営業利益で12億円)があった前第2四半期連結累計期間の売上高1,424百万円と比べて52.8%減少しました。

【不動産事業、建設事業の売上高】

不動産事業、建設事業については、両事業に属する連結子会社6社のうち5社については前第3四半期連結会計期間から損益計算書を連結しており、前第2四半期連結累計期間には当該

5社の業績は連結の範囲に含んでおりません。従って、これらの子会社5社分の売上高が前年同期比の増加要因となっております。不動産事業の売上高は1,281百万円となり前第2四半期連結累計期間の売上高209百万円と比べて512.2%増加し、建設事業の売上高は423百万円となりました。なお、前第2四半期連結累計期間には建設事業を営んでおりません。

(上記のセグメント別の売上高は内部取引高を含んでおります。)

上記の投資銀行事業、不動産事業、建設事業及びその他の結果、売上高は2,400百万円(前年同期比43.8%増)となりましたが、投資銀行事業において大型投資回収がなかったことに加え、子会社の増加及び人員増強により人件費や地代家賃、広告宣伝費(不動産事業)の販売費及び一般管理費が増加した結果、営業損益は61百万円の営業損失(前年同期は841百万円の利益)となりました。経常利益については為替差益133百万円を計上したことで60百万円(前年同期比93.3%減)となり、四半期純利益は71百万円(前年同期比93.0%減)となりました。

3. 平成27年9月期通期連結業績予想数値の修正(平成26年10月1日～平成27年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	7,900	1,250	1,200	1,100	7.47
今回修正予想(B)	7,000	1,250	1,200	1,100	6.08
増減額(B-A)	△900	0	0	0	—
増減率(%)	△11.4	—	—	—	—
(ご参考)前期実績 (26年9月期)	3,911	555	684	923	6.92

(注) 当社は、平成26年4月1日を効力発生日として、普通株式1株につき100株の割合をもって株式分割を行っております。これに伴い、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して1株当たり当期純利益を算定しております。

4. 修正の理由

当社は平成27年4月28日の取締役会で建設事業を行う連結子会社の岡山建設㈱の全株式譲渡を決議し、平成27年5月1日に株式譲渡を実行したことにより、平成27年9月期第3四半期連結会計期間より、同社が連結の範囲から除外されることとなりました。つきましては、同社の業績見込みを通期の連結業績予想から控除したため、業績予想を修正いたしました。

また、当社グループの当連結会計年度におけるセグメント別の事業見通しは以下のとおりであります。なお、建設事業については、岡山建設㈱によるセグメントであったため、記載しておりません。

【投資銀行事業】

投資銀行事業においては、上記のとおりアレンジメント業務が好調を維持しております。引続きプリンシパルファイナンスも活用し、地域社会・地域産業や顧客のニーズに合ったアレンジメント業務を続けております。またアセットマネジメント業務においても、不動産特定共同事業等を活用した不動産証券化の取組みを開始しており、この業務受託による収益拡大を企図しております。企業投資については、様々な成長企業の価値向上による収益を見込んでおりますが、特にライフサイエンス、IT・エレクトロニクス企業に投資するFinTech GIMV Fund, L.P. (FGF)からの投資回収については、期初から見込んでいた当期中の大型の投資回収に向けた動きが順調に進んでおります。これらを総合して、投資銀行事業においては、通期見通

しは変更いたしません。

【不動産事業】

不動産事業においては、当連結会計年度の収益貢献が期待される戸建住宅分譲については、第2四半期連結累計期間において用地仕入が順調に進み並行して住宅建築を進めたことで、当第2四半期末の連結での販売用不動産及び仕掛販売用不動産の合計残高は1,726百万円（建設事業における残高32百万円を含む）となっております。第3四半期の平成27年5月から順次竣工し戸建住宅分譲による売上が計上されていく見込であります。

【その他】

その他においては、㈱ムーミン物語及び㈱アダコテックが第2四半期連結会計期間より連結の範囲に含まれておりますが、現時点において、これによる連結業績への影響は軽微であります。なお、当社グループはムーミンテーマパーク設立のため、候補地の選定等の準備を進めております。候補地については現段階において決定に至っておりませんが、最終的な関係者との調整を経て近く決定する見込みであります。テーマパーク候補地の決定及び当該決定による連結業績への影響は、明らかになり次第、適宜、開示して参ります。

(注) 上記の業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後の様々な要因により、上記予想数値とは異なる可能性があります。

以 上